

第1章 学校教育と道徳教育

1 道徳教育の目標



(1) 道徳教育の目標って何だろう？

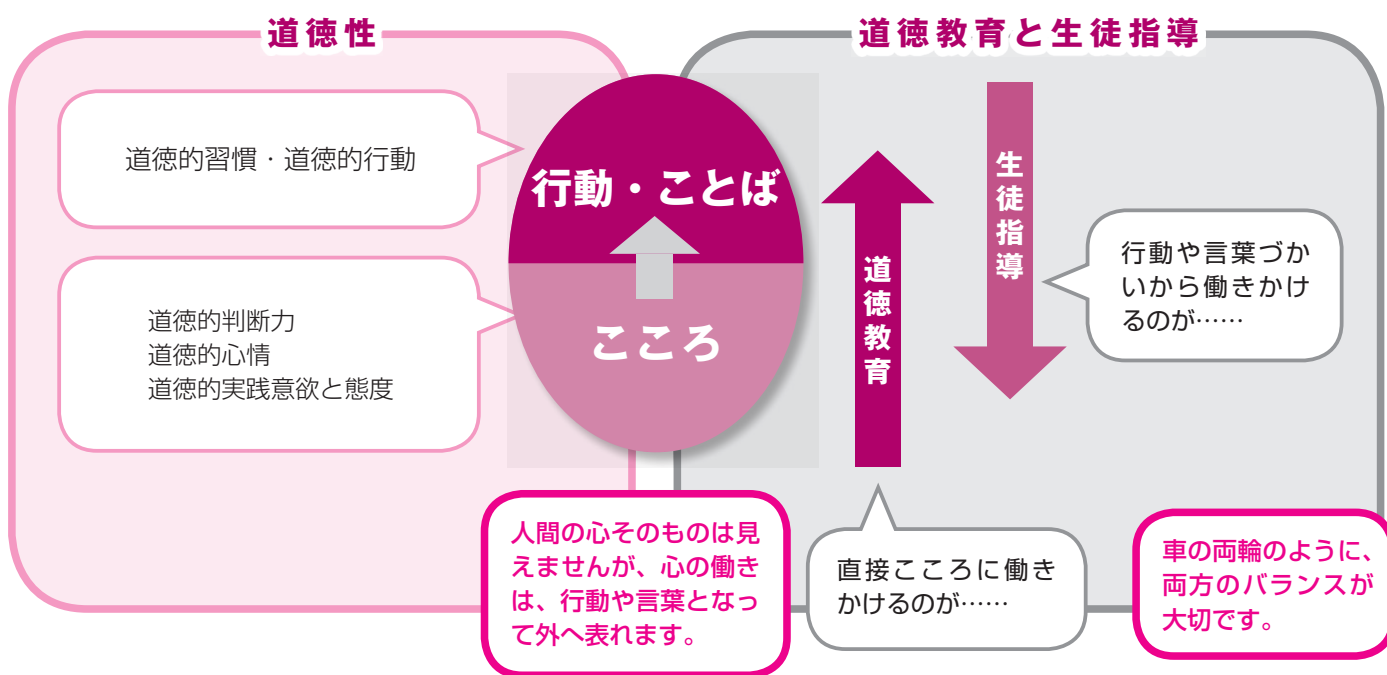
道徳教育の目標は「道徳性」の育成です。



道徳教育は、人間が本来もっている「人間としてよりよく生きたい」という願いに基づいてよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

道徳性とは「人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性」です。またそれは、人間らしいよさであり、人格の基盤となるものです。

学校における道徳教育では、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標です。



※この図は、わかりやすくするために単純化した図式で例示的に表したものです。

人間としてよりよく生きるために—人格の基盤としての道徳性の育成—

人間は、本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっています。

道徳教育は、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

また、教育は人格の完成を目標としていますが、道徳教育はこの人格の形成の基本に関わるものです。それぞれの人格は、人間社会における様々な関わりや自己との対話を通し形成されていきます。その過程において、人間は様々な夢を描き、希望をもち、悩み、苦しみ、人間としての在り方や生き方を自らに問い掛けながら生きていきます。この問い掛けを繰り返すことによって、人格もまた磨かれていきます。



(2) 道德性とは何だろう？

学校における道德教育で養うこととされている道德性は、道德的判断力、道德的心情、道德的实践意欲と態度などの諸様相です。



道德的判断力

様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する能力

- ・それぞれの場面において善悪を判断する能力
- ・それぞれの場面において機に応じた道德的行為が可能になる力

例えば……
これをすると、家族はどう思うかな？
こうしたら、将来の自分はどうなるかな？
この行為は、相手にとっても良いことかな？
などを考え、人間としてどのように対処することが望ましいかを判断する能力



道德的心情

道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

- ・人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情
これは、道德的行為への動機として強く作用するものです。

例えば……
善いことをしたときには、嬉しい！
間違ったことをしてしまったら、もやもやするような感情



道德的实践意欲と態度

道德的判断力や道德的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

- ・道德的实践意欲とは、道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き
- ・道德的态度とは、それらに裏付けられた具体的な道德的行為への身構え

例えば……
夢や目標にむかって、がんばるぞ！
困っているみたいだな。よし、声をかけよう！
人として、だめなものはだめなんだ！
人として恥ずかしくない行動をとろう！とする意欲と心構え



学校教育の様々な場面において、具体的な道德的習慣や道德的行為について指導を行うことがあります。その際には、指導を通じてそれらの意義を理解し、自らの判断により、進んで適切な実践ができるような道德性を養うことが最終的なねらいです。

道德教育は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問題と言いかえることができます。したがって、道德教育においては、児童生徒のよりよく生きようとする願いにこたえるために、児童生徒と教師が共に考え、共に探求していくことが前提となります。

私たちは、日々の生活における様々な関わりを通して、人間としての在り方を自覚し、よりよい生き方を求めていきます。道德教育では、それらの関わりを自分自身、他の人、生命や自然、崇高なものと及び社会などの視点で捉え、教育内容を内容項目として分類整理しています。それらの内容項目を窓口、道德性を育みます。



(3) 道徳教育の内容は
どのようなものなのだろう？

学習指導要領では、四つの
視点に分けて示しています。



道徳教育の内容

A の視点

主として自分自身に関すること

自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに關するもの。

B の視点

主として人との関わりに関すること

自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに關するもの。

C の視点

主として集団や社会との関わりに関すること

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに關するもの。

D の視点

主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに關するもの。

内容項目は、児童生徒が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものです。学習指導要領では、児童生徒の道徳性を四つの視点から捉え、その視点から内容項目を分類整理し、内容の全体構成や相互の関連性と発展性を明確にして学年段階ごとに示されています。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階など全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要があります。内容項目は、その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものです。実態に即した指導を進めるためにはそれぞれの内容項目について、教師が理解を深めることが欠かせません。

道徳の内容は、教師と児童生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題であるとされています。

道徳の内容項目は、学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、児童生徒自らが調和的な道徳性を養うためのものです。道徳教育の要としての道徳科はもとより、すべての教育活動において指導すべき内容です。また、内容項目は児童生徒自らが道徳性を養うための手掛かりとなるものです。したがって、各内容項目を児童生徒の実態を基に把握し、指導上の課題を具体的に捉え、実態に応じた指導をしていくことが大切です。そして、内容項目を児童生徒の立場から具体的に捉えるための一助になるのが「私たちの道徳」や「心のノート」です。



(4) 内容項目を正しく理解するためには？

学習指導要領解説を読みましよう！「私たちの道德」も参考になります！



学習指導要領解説の「第3章 道德科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」をしっかりと読み込むことが大切です。また、小学校1・2年から中学校までの内容項目を比べてみると、道德性の発達の段階が見えてきます。その発達の段階を理解することで、内容項目の理解が一層深まります。

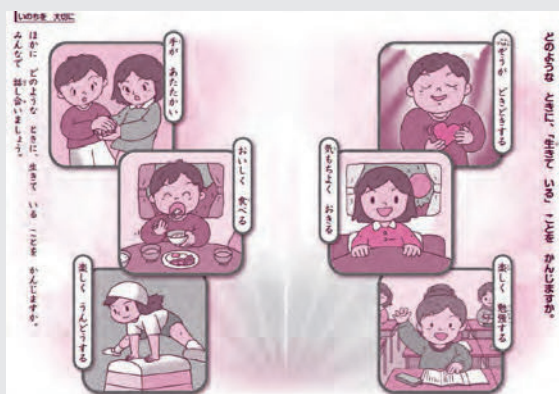
具体的に子どもたちの生活の中で考えるとどうということなのかをわかりやすい言葉と写真やイラストで解説しているのが「私たちの道德」です。ぜひ、活用してください。

例えば、「生命の尊さ」に関わる内容項目では……

1・2年

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

「わたしたちの道德」では……



中学校

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

「私たちの道德」では……



3・4年

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

「わたしたちの道德」では……



5・6年

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

「私たちの道德」では……

